

小松市

# 八日市地方遺跡

北陸新幹線建設事業(金沢・敦賀間)に係る  
埋蔵文化財発掘調査概要報告書



## 目次

1. 遺跡の立地と周辺の遺跡	1
2. これまでの発掘調査成果	2
3. 北陸新幹線建設に伴う発掘調査	4
(1) 居住域	5
(2) 墓域	7
(3) 川跡(埋積浅谷)	8
4. 主な出土品	11

八日市地方遺跡の変遷と関連年表

### 表紙写真

- ・碧玉の管玉とヒスイの垂飾を連ねた装身具
- ・把付磨製石剣【小松市所蔵 重要文化財】と柄付き鉄製鉞(撮影:田邊 朋宏)
- ・管玉や勾玉などの玉類



## 例言

- ・本書は、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構が施工する、北陸新幹線建設事業(金沢・敦賀間)に伴い、石川県教育委員会が依頼を受けた小松市八日市地方遺跡発掘調査の概要報告書である。
- ・調査は、公益財団法人 石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受け、平成27(2015)年度から平成29(2017)年度にかけて実施した。
- ・八日市地方遺跡の大量の出土品は整理中のため、その全貌を明らかにするには年月を要する。本書に掲載した資料はその一部に過ぎず、本報告までにその見解や評価が変化することがあり得る。
- ・本書の執筆及び編集は、中屋克彦(調査部特定事業調査グループ主幹)、林 大智(同専門員)、加藤江莉(同調査嘱託)、中谷光里(調査部国関係調査グループ調査嘱託)が分担し行った。
- ・本書の作成にあたり、以下の機関及び個人の協力・助言をいただいた。(敬称略)  
小松市埋蔵文化財センター、奈良県立橿原考古学研究所、石川日出志、奥山誠義、櫻田 誠、小林和貴、小林青樹、佐々木由香、佐藤由紀男、下濱貴子、田邊朋宏、禰宜田佳男、能城修一、深澤芳樹、宮田 明、村上恭通

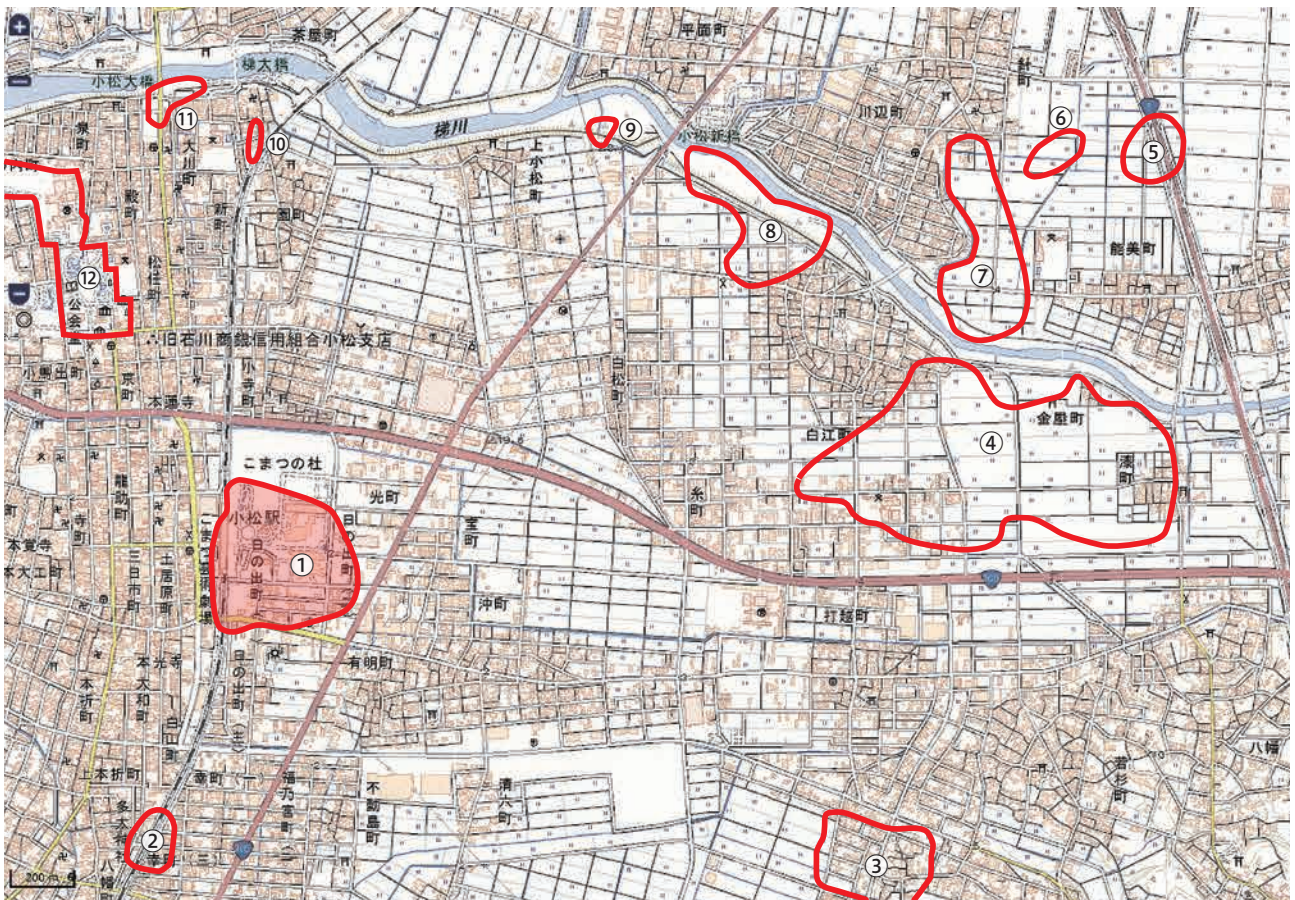
# 1 遺跡の立地と周辺の遺跡

八日市地方遺跡は、石川県小松市日の出町を中心とする JR 小松駅の東側一帯にひろがる、推定面積約 20 万㎡の北陸地域を代表する弥生時代中期の大規模環濠集落で、平坦な沖積低地内に形成された標高 1～2 m 程度の浜堤列上に立地している。

遺跡の周辺は、梯川やその支流の合流地点にあたりと共に、干拓事業で消滅・縮小した潟湖が複数所在することから、水上交通の要衝に位置する遺跡として捉えられる。

梯川流域には、漆町遺跡、白江梯川遺跡、一針 B 遺跡、一針 C 遺跡、千代・能美遺跡などの弥生時代から古墳時代の遺跡が多く立地している。

また、県内最大の前方後円墳である秋常山 1 号墳や、甲冑をはじめとする豊富な副葬品が納められていた和田山 5 号墳を含む能美古墳群や、朝鮮半島の王墓の影響を受けたと考えられる、アーチ形の天井をもつ切石積みの横穴式石室が見つかった河田山古墳群などが埴田・河田地区に展開し、加賀国府の推定地も存在するなど、手取川から梯川流域が古代における拠点的な地域のひとつであったことが窺われる。



- ① 八日市地方遺跡    ② 幸町遺跡    ③ 吉竹遺跡    ④ 漆町遺跡    ⑤ 千代・能美遺跡    ⑥ 一針 B 遺跡  
⑦ 一針 C 遺跡    ⑧ 白江梯川遺跡    ⑨ 平面梯川遺跡    ⑩ 園町遺跡    ⑪ 大川遺跡    ⑫ 小松城跡

八日市地方遺跡と周辺の主な遺跡

## 2 これまでの発掘調査成果

八日市地方遺跡では、これまで多くの発掘調査が行われている。なかでも、小松市教育委員会が平成5（1993）年度から平成12（2000）年度に実施した小松駅東土地地区画整理事業に係る発掘調査では、集落の中央を東西に貫く川跡（埋積浅谷）の両岸に多重の環濠に囲まれた居住域が確認され、環濠の外側には方形周溝墓を主体とする広大な墓域の存在が明らかとなった。

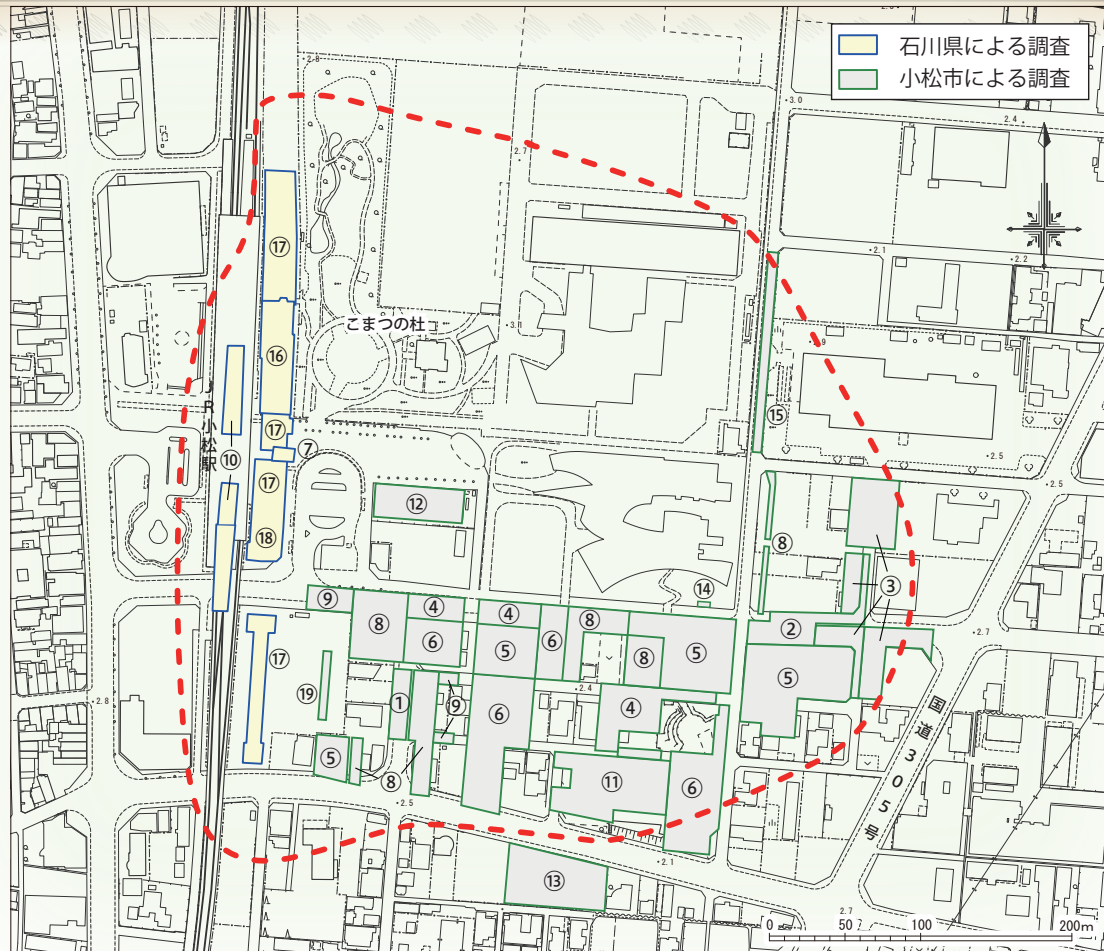
居住域には平地建物、掘立柱建物、井戸、土坑などが密集しており、川跡の肩部付近からは、複数の貝層（貝塚）や堅果類の貯蔵穴と共に、木製品の未成品や原材、玉作り関連資料などが確認され、居住域に隣接した川跡肩部が、生業に係る多種多様な加工・処理及び貯蔵、生産の場として利用されたことが窺われる。

これらの遺構や川跡から発見された出土品は、数十万点にも及ぶ膨大な量で、土器・土製品、木製品、石器・石製品など多様な様相を示している。土器には、伊勢湾岸地域、琵琶湖周辺から近畿北部、瀬戸内、信州北部などからの搬入品ないし模倣品が含まれており、広範な地域間交流が行われていたことを示している。

生産関連では、碧玉の管玉やヒスイの勾玉とともに、その原石や未成品、剥片が大量に出土している。また、石鋸や石針、砥石などの製作道具も多数出土しており、玉作りが盛んに行われていたことを示し、製作工程を復元することができる良好な資料となっている。

### 八日市地方遺跡の主な調査履歴

調査区	調査年度	調査主体	調査目的	調査面積	主な調査成果・出来事	文献
	昭和5(1930)年	後藤長兵衛			水田から磨製石斧2点を採集。	
	昭和12(1937)年	上野与一	【試掘調査】			
	昭和13(1938)年	後藤長平	【小規模発掘】			
	昭和24(1949)年	小松高校	【発掘調査】			
	昭和25(1950)年	明治大学・石川考古学研究会	【発掘調査】			
	昭和36(1961)年	石川考古学研究会	【発掘調査】			
	平成4(1992)年	小松市埋蔵文化財調査室	【試掘調査】 駅東土地地区画整理事業			
①②	平成5(1993)年	小松市埋蔵文化財調査室	【発掘調査】 駅東土地地区画整理事業	1990㎡	曲物状井戸枠が出土。	八日市地方遺跡 2003 八日市地方遺跡 II 2013/2014/2016 (1)
③	平成6(1994)年	小松市埋蔵文化財調査室	【発掘調査】 駅東土地地区画整理事業	3297㎡	環濠、居住域を検出。	
③④	平成7(1995)年	小松市埋蔵文化財調査室	【発掘調査】 駅東土地地区画整理事業	4067㎡	居住域、墓域を確認。	
⑤	平成8(1996)年	小松市埋蔵文化財調査室	【発掘調査】 駅東土地地区画整理事業	8427㎡	川跡より把付磨製石剣出土。	
	平成8(1996)年	石川県立埋蔵文化財センター	【試掘調査】 小松駅付近連続立体交差事業			
	平成8(1996)年	石川県教育委員会文化財課	【試掘調査】 小松駅付近連続立体交差事業			
	平成9(1997)年	小松市埋蔵文化財調査室	【試掘調査】 駅東土地地区画整理事業			
⑥	平成9(1997)年	小松市埋蔵文化財調査室	【発掘調査】 駅東土地地区画整理事業	6410㎡	環濠、墓域を確認。	(1)と同書
⑦	平成9(1997)年	石川県立埋蔵文化財センター	【発掘調査】 小松駅付近連続立体交差事業	270㎡	平地式建物3棟検出。	八日市地方遺跡 2004
⑧	平成10(1998)年	小松市埋蔵文化財調査室	【発掘調査】 駅東土地地区画整理事業	5271㎡	居住域、方形周溝墓を確認。	(1)と同書
⑨	平成11(1999)年	小松市埋蔵文化財調査室	【発掘調査】 駅東土地地区画整理事業	744㎡	川跡肩部を検出。	
⑩	平成11(1999)年	(財団)石川県埋蔵文化財センター	【発掘調査】 駅舎本体工事	6000㎡	木製合子が出土。	八日市地方遺跡 2004
⑪	平成12(2000)年	小松市埋蔵文化財調査室	【発掘調査】 駅東土地地区画整理事業	2350㎡	埋葬施設を含む墓域を確認。	(1)と同書
⑫	平成18(2006)年	小松市教育委員会	【発掘調査】 共同住宅建設	1300㎡	居住域、川跡を確認。	八日市地方遺跡 III 2008
⑬	平成20(2008)年	小松市教育委員会	【発掘調査】 店舗建設	132㎡	(遺跡範囲外)	八日市地方遺跡 IV 2008
	平成23(2011)年	小松市教育委員会	【試掘調査】 サイエンスヒルズこまつ建設			
⑭	平成24(2012)年	小松市教育委員会	【発掘調査】 市道御宮町-日の出線道路整備	450㎡	川跡北岸域の居住域を確認。	
⑮	平成25(2013)年	小松市教育委員会	【発掘調査】 サイエンスヒルズこまつ建設	8㎡	川跡と集落内の空閑地を確認。	
⑯	平成27(2015)年	(公財)石川県埋蔵文化財センター	【発掘調査】 北陸新幹線建設(金沢・敦賀間)	1700㎡	環濠、居住域を確認。	石川県埋蔵文化財情報 第36号 2016
⑰	平成28(2016)年	(公財)石川県埋蔵文化財センター	【発掘調査】 北陸新幹線建設(金沢・敦賀間)	6790㎡	居住域、墓域、川跡を確認。	石川県埋蔵文化財情報 第38号 2017
⑱	平成29(2017)年	(公財)石川県埋蔵文化財センター	【発掘調査】 北陸新幹線建設(金沢・敦賀間)	1240㎡	川跡より貝塚を検出。 柄付鉄製鉋が出土。	石川県埋蔵文化財情報 第39号 2018
⑲	平成29(2017)年	小松市教育委員会	【発掘調査】 学術研究	372㎡	環濠、方形周溝墓を検出	



八日市地方遺跡の範囲とこれまでの調査区

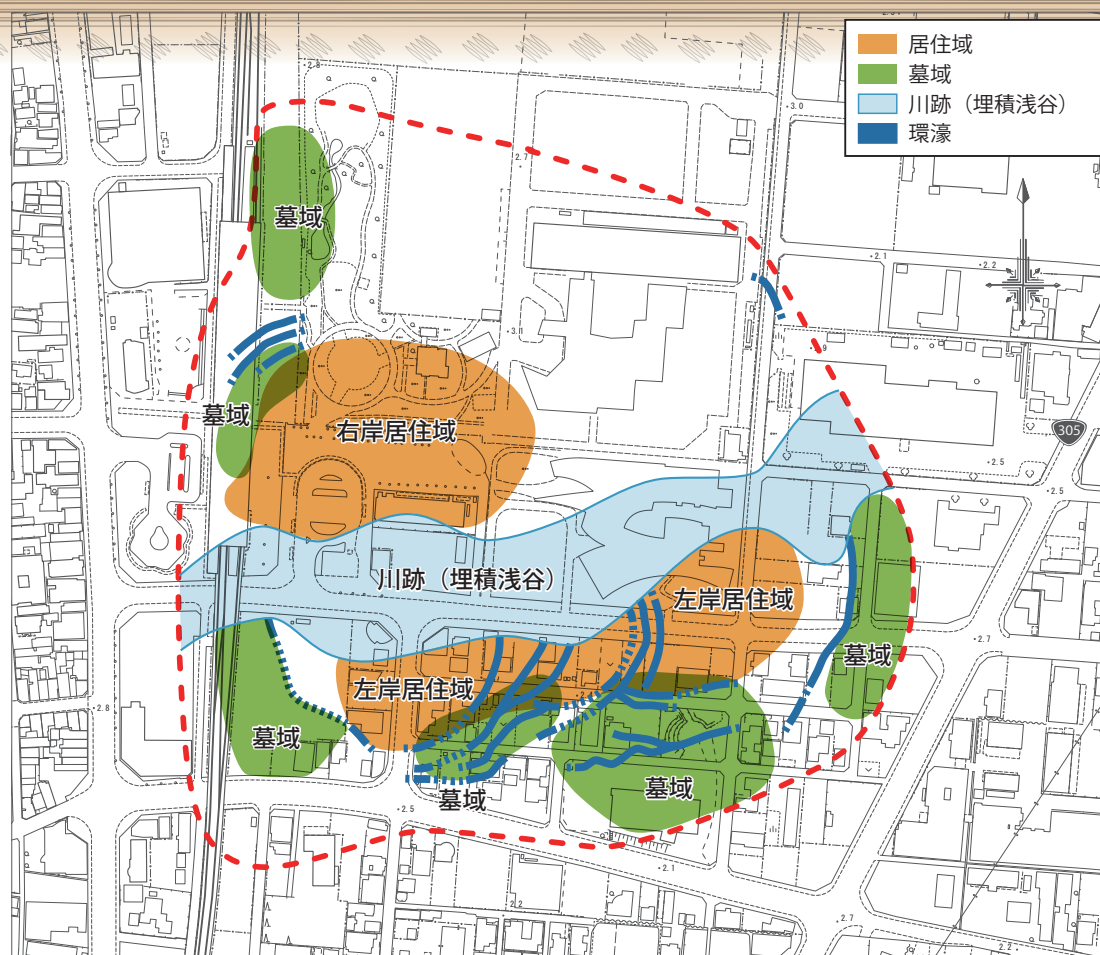
また、木製の農耕具、容器類、食器具などが、原木や未成品などとともに大量に出土しており、木材の加工や木製品の生産が盛んに行われていたことが分かる。

さらに、鳥や人、シカ、魚、武器などを模った土製品や木製品などの多様な形態の祭祀具も出土するなど、弥生人の精神世界を垣間見ることができる。



これらの出土品（小松市教育委員会調査分）は、「北陸地方を代表する、弥生時代中期に盛行した拠点集落の出土品一括として、弥生時代の生産・流通ならびに祭祀を復元するうえで極めて重要である」として、平成 23（2011）年 6 月に 1,020 点が国の重要文化財に指定されている。

重要文化財に指定された出土品の一部  
 (小松市埋蔵文化財センター提供 撮影：小川忠博)



八日市地方遺跡概略図

### 3 北陸新幹線建設に伴う発掘調査

調査地	小松市土居原町、日の出町地内
調査原因	北陸新幹線建設事業（金沢・敦賀間）
調査期間	平成 27（2015）年 9 月 15 日～平成 29（2017）年 6 月 30 日 ※中断期間含む
調査面積	9,730 m <sup>2</sup>
主な遺構	掘立柱建物、平地建物、井戸、方形周溝墓、環濠、川跡、貝塚、貯蔵穴など
主な遺物	土器・土製品、石製品、木製品、鉄器、青銅製品、骨角器、玉作り関連資料など

北陸新幹線建設に伴う発掘調査は、平成 27（2015）～ 29（2017）年度の 3 ヶ年にわたり、遺跡の西端を南北方向に縦断し建設される小松駅舎及び高架橋建設部分を対象として実施した。

調査では、平地建物、柱穴、土坑などの遺構が複数切り合い密集する居住域を確認し（B 区～C 区北側）、その北辺を取り囲む環濠 3 条を検出した。

また、主に居住域を取り囲む環濠の外側に、30 基を超える方形周溝墓で構成された広大な墓域を確認した（A 区～B 区、D 区）。

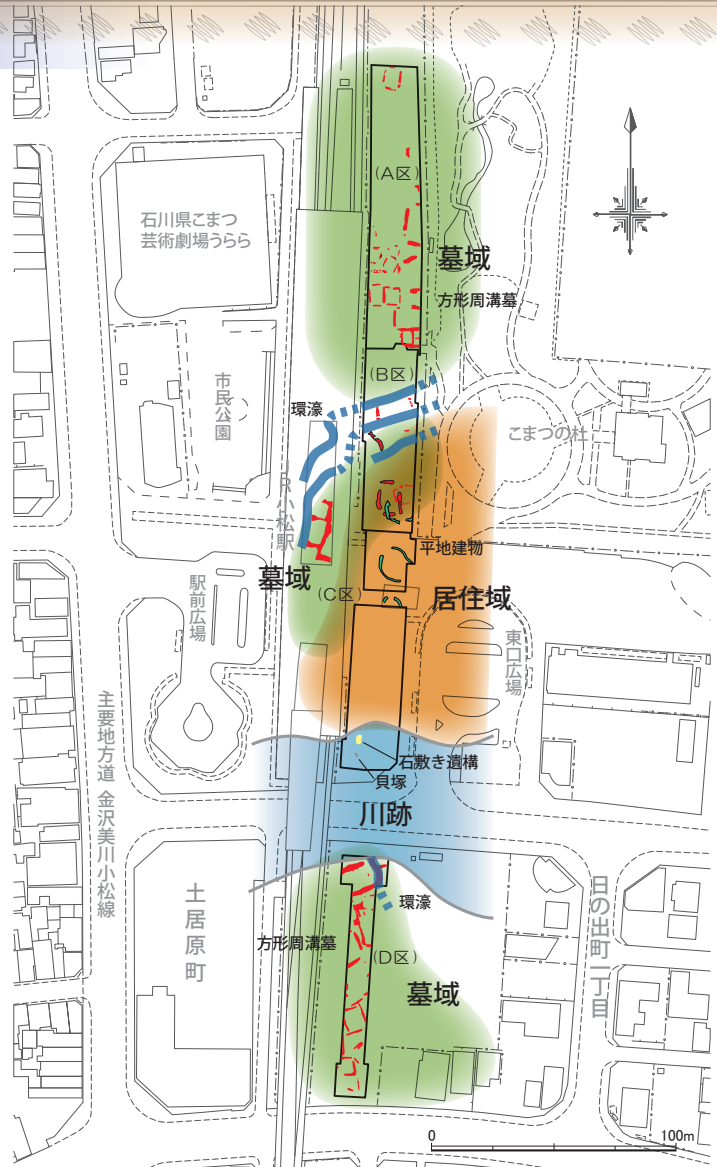
さらに、居住域の南には川跡（埋積浅谷）を確認（C 区南側）し、大量の木製品や土器のほか、玉作り関連遺物や獣骨・貝などが出土した。

## (1) 居住域

遺跡の中央を貫く川跡（埋積浅谷）の右岸側にあたり、多重の環濠に取り囲まれた居住域の西端に位置する。B区及びC区北側では、掘立柱建物、平地建物、井戸、土坑など複数の遺構が切り合い、足の踏み場のないほど密集する居住域を確認した。なかには、土器製作用の粘土を貯蔵した小穴や、碧玉剥片が多数出土した土坑、編みかごとその素材束、広鋏未成品などを水漬け保管した土坑など、様々な物資の生産関連施設のほか、表面に鋭利な工具で文様が施された「線刻砥石」が出土した土坑なども確認した。

これらの遺構からは、大量の土器のほか、碧玉の管玉やその未成品、ヒスイの勾玉とその未成品、そしてそれらを加工するための石鋸や砥石、石針などの道具も多数出土している。

また、B区北側では、居住域の北縁部を取り囲む3条の環濠を検出し、環濠内には、多数の枝付き木材や杭を組み合わせた構造物を確認した。



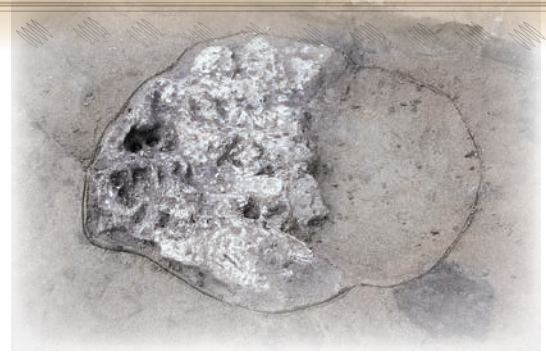
新幹線調査区概略図



遺構が密集する居住域 (C区)



土坑からまとめて出土した碧玉の剥片など（C区）



粘土を貯蔵した小穴（C区）



土坑に一括廃棄された土器（C区）



編みかごと素材束などを水漬けした土坑（B区）



環濠掘削作業（B区）



鋭利な工具で文様が施された「線刻砥石」



さまざまな石製品

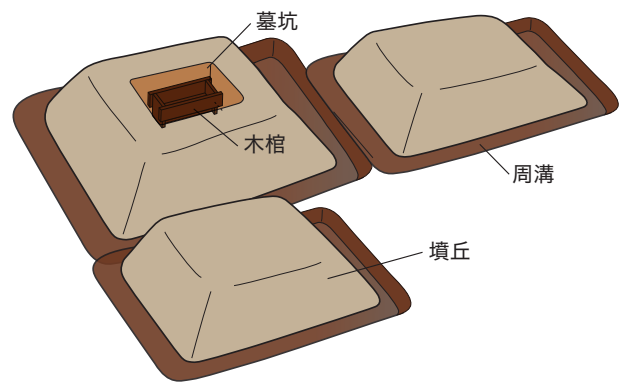
## (2) 墓域

調査区の南北端に位置する A・D 区では、ほぼ全域に方形周溝墓を主体とする墓域を確認した。

今回の発掘調査で見つかった 30 基を超える方形周溝墓は、墳丘の長辺が 4m 程度の小型墓から、遺跡内で最大規模の 15m を超える大型墓まで様々な規模のものが混在し、周溝の四隅が途切れるものを主体とする。隣接する周溝墓と溝を重複・共有させ、连接的に築造されたものが多く、既設の環濠を周溝として再掘削したもの（D 区）や、環濠と環濠の間で、環濠の掘削で生じた盛土の高まりを利用したもの（B 区）も見られる。

近世以降の攪乱により、墳丘を削平されたものが大半を占めており、埋葬施設の検出は 5 基のみに留まる。そのうち D 区では、方形周溝墓の墳丘内で 2 基の埋葬施設（組合せ式木棺）を検出し、D 区 SK1 からは碧玉の管玉 2 個が出土した。

また、方形周溝墓の埋没した周溝を掘り込んで設置された土坑墓（D 区 SK3）が確認され、被葬者の頭位と推測される東端付近からは、赤色顔料を検出した。周溝内の供献土器は D 区の墓域で顕著に認められた。



方形周溝墓模式図



A 区全景（南から）



接続する方形周溝墓（A 区）



環濠（手前）を利用した方形周溝墓（D 区）



埋葬施設（D 区 SK2）

### (3) 川跡 (埋積浅谷)

C区南側では川跡及び右岸域の遺構群を検出した。川のほとりには、井戸状の遺構を隣接させた掘立柱建物3棟を確認した。井戸の側材には丸太割り抜き材を用いたものと樹皮を用いたものが認められる。

また、背後に長大な横板材を用いた板柵土留めが施された、玉砂利を敷き詰めた石敷き遺構(C区SX3)を検出した。



掘立柱建物と井戸 (C区)



板柵土留め (C区)



玉砂利を敷いた遺構 (C区)

川跡肩部から川底に向かって緩やかに下降する斜面地には、杭と小径木により馬蹄形の囲いを作り、製作途中の木製品を水漬けした貯木施設が確認され、木製品の生産が盛んに行われていたことが窺われる。

また、シジミやカキを主体とした小規模な貝塚を検出し、その周辺からは、ニホンジカ、イノシシ、イヌ、クジラ(骨端板)などの動物骨や骨角器、コイ科主鰓蓋骨(えらぶた)の集積をはじめとする魚類残滓なども確認できた。



貯木施設 (C区)



川跡からの遺物出土状況（C区）



トチの貯蔵穴（C区）



木製農具の出土状況（C区）

さらに、トチ・クリ・ドングリなどが集められた貯蔵穴、人為的に割り剥かれた堅果類（ドングリなど）の種皮を集積した遺構など、遺跡を営んだ人々の暮らしぶりが垣間みられる遺構を多く確認した。

川跡は緩やかに蛇行しながら西流しており、幅は最大で 50m を超える。弥生時代中期前葉から後期前半の長期間に亘る堆積層からは、ボックス型コンテナで 1,000 箱を超える膨大な量の土器、石製品、木製品、玉作り関連資料などが出土している。この中には「柄付き鉄製鉈」や 4 点の鑄造鉄斧柄、小型青銅製品、碧玉の管玉とヒスイの垂飾を連ねた装身具などの稀少な資料や、通常の遺跡では残りにくいかごや箕などの編み物や縄、蔓製品も含まれる。さらに、樹皮紐・素材が多数出土しており、樹皮素材から紐への加工工程に迫りうる良好な資料が得られた。

一方、D 区北側では川跡左岸の肩部を確認したが、土器や石製品などがほとんど出土せず、集落が形成され始める弥生時代前期以前の流路と判断される。



ニホンジカの角



イノシシの頭

イヌの下顎



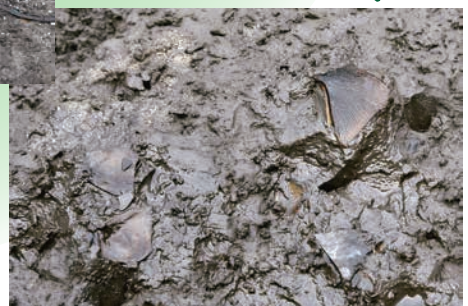
〔貝塚〕



シジミとカキが中心



クジラの骨端板



コイ科の主鰓蓋骨（えらぶた）

## 4 主な出土品

### 「柄付き鉄製鉈」の発見！

これまで八日市地方遺跡で出土している大量の木製品には、鉄斧や鉄剣の木柄とともに、鉄器で加工したとしか思えない精巧な造りのものが数多く含まれており、研究者の間では弥生時代中期前半以降には、小型鉄器が使用されていたことを指摘する声があった。そうした中で今回出土したのが「柄付き鉄製鉈」である。

イヌガヤ属の芯持ち材を用いた柄が完存する鉄製鉈で、柄の上半部を二枚合わせにして鉄部分を挟み込み、糸を巻き付けて固定した上から、テープ状に加工したサクラの樹皮を刃部側から巻き付ける構造となっている。

鉈の全長は16.3 cmを測るが、鉄部分は長さ5.1 cmで、柄の中に2.7 cm挟み込まれている。刃部は三角形で、その両辺に刃がつき、幅1.9 cm、厚さ2 mmを測る。柄の下方には隆帯が削り出され、斜格子文が彫り込まれている。

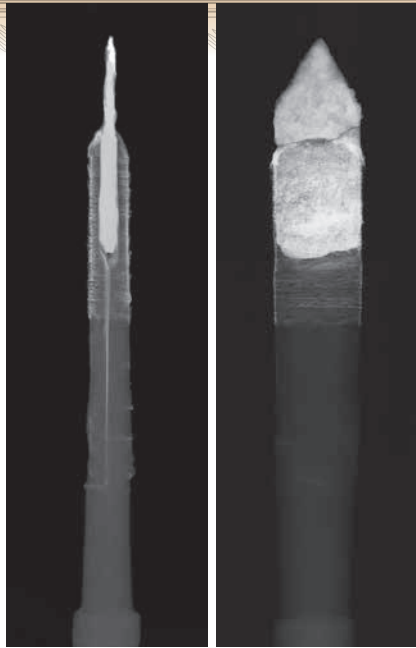
共伴する土器から、この鉈は弥生時代中期前半（約2,300年前）に位置付けられるもので、日本列島で鉄器の生産が始まる前に大陸からもたらされた「舶載鉄器」であり、鉄器が列島各地に普及していく過程を考えるうえで、重要な資料として注目される。



「柄付き鉄製鉈」の出土状況

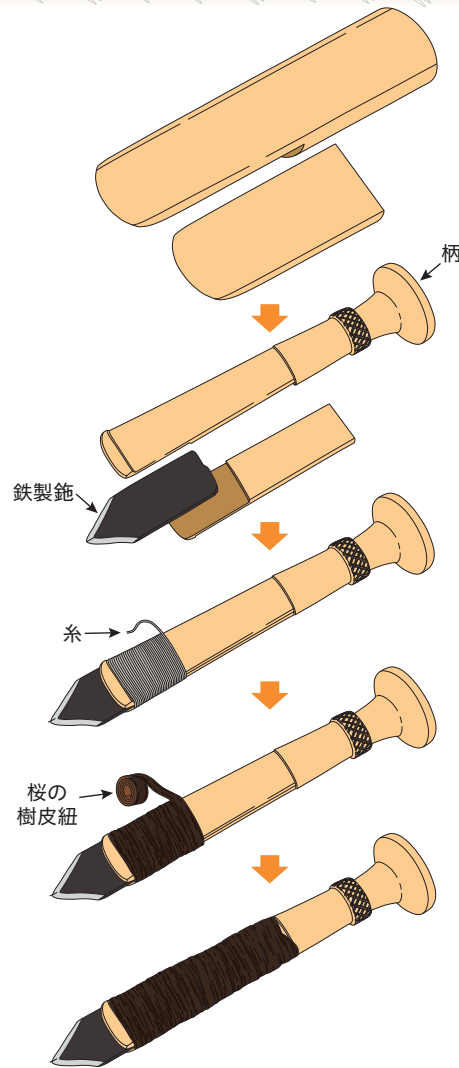


「柄付き鉄製鉈」の各部寸法



「柄付き鉄製鉋」X線透過画像

「柄付き鉄製鉋」の発見は、これまでの発掘調査で見つかった鉄器装着用に加工された柄、木製品や骨角器に遺された加工痕、鉄刃を手入れするための砥石などを再評価する契機となった。なかでも、大陸から舶載された鑄造鉄斧を装着するための木製柄は 13 点にのぼることが判明し、弥生時代中期の日本列島で最多の出土量を誇る。



- ① 原材（イヌガヤ属）上部を縦方向に分割
- ② 柄のグリップエンドや鉄製鉋装着部の段などを作成
- ③ 鉄製鉋を柄に挟み込み、ずれを防ぐため糸で固定
- ④ テープ状にしたサクラの樹皮紐を巻き付けて固定
- ⑤ 完成！

「柄付き鉄製鉋」の製作工程

## コラム1 鉋（ヤリガンナ）とは

鉋は槍のように尖った笹の葉状の刃先で、木材の表面を削って平らに仕上げる木工具です。中世の絵巻物などに、木材の表面を削り平らに仕上げる様子が描かれています。

鉋（カンナ）といえば、現代では鉋台に刃が仕込まれた台鉋を指しますが、台鉋が日本に入ってきた室町時代中期頃までは、鉋が一般的に「カンナ」と呼ばれていました。

弥生～古墳時代のもは短いものが多く、片手で握り、木製容器の最終調整などの小物細工用に使用されたものと考えられます。



鉋



台鉋



石斧柄と鉄斧柄



青銅製品と鉄片

さらに、川跡堆積土の水洗選別作業では、微小な青銅製工具や鉄片も見つかっている。以上のことから、八日市地方遺跡では、複数の金属製工具と石製工具を併用したバラエティー豊かな工具組成により、多種多様な「ものづくり」が行われていたことを推測でき、弥生時代中期における鉄器普及の認識に一石を投じる大きな成果が得られつつある。

### 玉作りの一大拠点！

八日市地方遺跡では、美しい緑色の碧玉を加工した管玉や新潟県糸魚川産のヒスイを加工した勾玉などの生産が盛んに行われていたことが明らかになっている。これまでの調査でもそれらの原石や未成品、剥片が大量に出土しているほか、石鋸や石針、砥石などの製作道具も多数出土している。



玉作り関連資料

南加賀山間部の碧玉産出地から運ばれた原石は、この集落内で管玉などに加工され、列島各地へ運ばれた。生産地であるこの場所で、すでにヒスイの垂飾と一連になった装身具も出土しており、注目される。

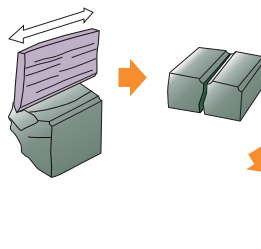
① 原石採取・粗割り



② 石鋸で溝を切って四角く割る



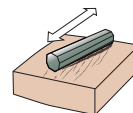
③ 分割を繰り返して角柱体を作る



④ 側面を細かく剥離し形を整える

管玉の製作工程

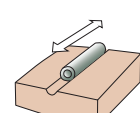
⑤ 砥石で多角柱状に研磨する



⑥ 石針で穴をあける

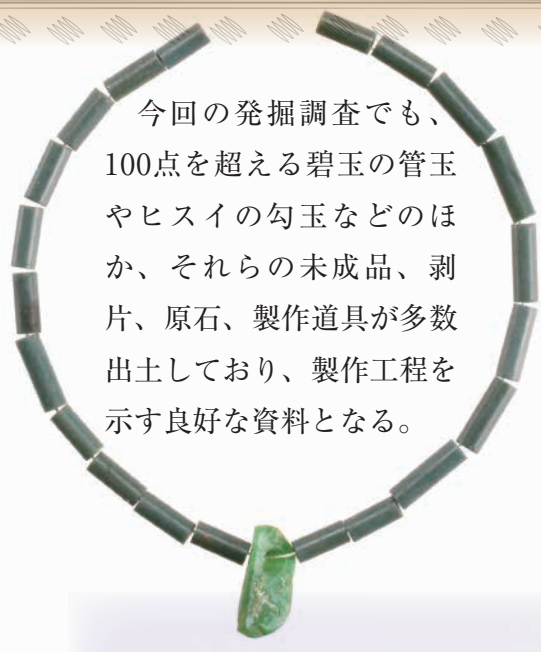


⑦ 砥石で研磨して角を取る



⑧ 完成！





今回の発掘調査でも、100点を超える碧玉の管玉やヒスイの勾玉などのほか、それらの未成品、剥片、原石、製作道具が多数出土しており、製作工程を示す良好な資料となる。



碧玉の管玉とヒスイの垂飾を連ねた装身具

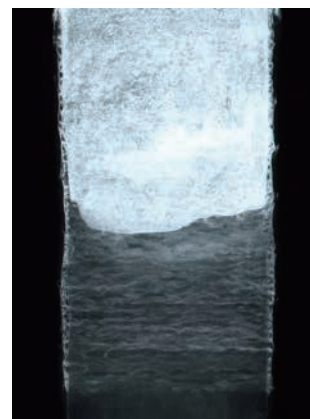


彩り豊かな玉

### 多彩な木製品などのものづくり

川跡からは農具をはじめとする大量の木製品が出土した。この中には製作途中のものや粗割りされた木材などが多く含まれる一方、精巧なつくりの木製容器や匙なども見られ、農具以外にも、多様な木製品が製作されていたことが窺われる。これらの加工には、「柄付き鉄製鉈」や青銅製ノミ、片刃石斧などの小型工具が用いられていたものと考えられる。

また、鉈を柄に固定するために糸が使われていることが判明しているが、こうした糸をつくるための道具（石製、骨製、土製）や、布を織るための機織り道具も出土している。



鉈を固定する糸



木製農具とその未成品

八日市地方遺跡の木材利用の一部

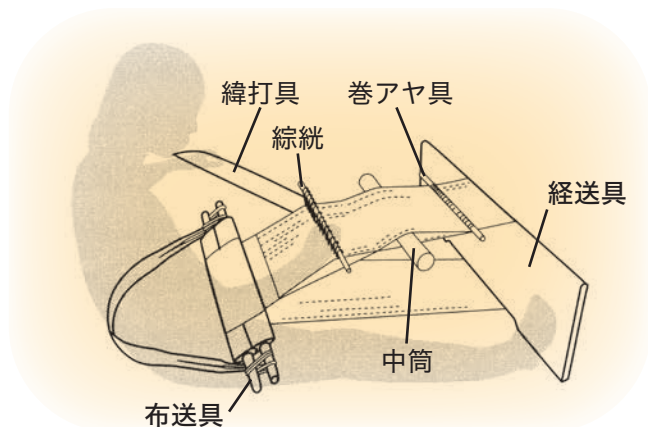


木製容器と匙

樹種		主な用途
針葉樹	モミ属	漁労具、部材
	スギ	柱、杭、部材、祭祀具
	イヌガヤ	弓、柄（鉋）、漁労具
広葉樹	ケンボナシ属	容器
	ケヤキ	容器（高坏）、鋤鍬
	クワ属	容器（ジョッキ形）
	クリ	柱
樹	クヌギ節	鋤鍬、柱、部材
	アカガシ亜属	鋤鍬、斧柄、部材
	トチノキ	容器
	キハダ	泥除
	ツバキ属	匙、柄、部材



機織りなどの道具



弥生時代の機織り（輪状式原始機）  
（東村 2011 より）

## 弥生人の食べ物事情

今回の調査では、弥生人の食べ物に関する資料も多数出土している。

貝塚にはシジミを主体として、カキ貝や巻き貝などが集積され、その周囲からは、シカやイノシシのなどの陸上動物、クジラやアシカ科と見られる海獣類、コイ科やタイ科・ニシン科などの魚類の骨が多く見つかっている。



イノシシの頭蓋骨



シカの角（一部加工あり）



コイ科の主鰓蓋骨  
(えらぶた)



クジラの骨端板



鹿角製のヤス



網杵



さまざまな形の石鏃

また、石鏃や弓、ヤスやアワビおこしなどに加工されたシカの角、土器の製作台として用いられた可能性があるクジラの骨端板、魚を捕るための網杵、石包丁などの穂摘み具や採集した種実を入れる編みかごなど、食べ物の捕獲・収穫に利用された道具も多数出土している。



穂摘み具（石包丁と木包丁）

植物では、トチ・クリ・ドングリなどの堅果類が集められた貯蔵穴や、それらの種皮を集積した遺構などが見つかっているほか、クルミ・ヒシ・メロン類・イネ、モモ・ブドウ属などの種実も多く見つかっている。



炭化した稲穂



コリヤナギとツツラフジで編まれた箕



トチ



ドングリの貯蔵穴



ドングリ



クリが入った編みかご



クリ



(部分拡大)

## 弥生人の精神世界に迫る！

川のほとりで見つかった石敷き遺構は、言葉のとおり玉砂利のような小石を敷き詰めた施設で、そこからは土器台と考えられる蔓製品やヒスイの勾玉が出土した。玉砂利はその場の清浄さを保つために敷かれたと考えられ、この施設が神聖な場所であったことを物語る。

また、舟や鳥、武器などを模った木製品や山陰・山陽地域に多く見られる分銅形土製品、シカなどが描かれた土器や動物形土製品などは、弥生人の精神世界を知る手がかりとなる物である。



鳥形木製品と舟形木製品



武器形木製品



分銅形土製品



動物形土製品



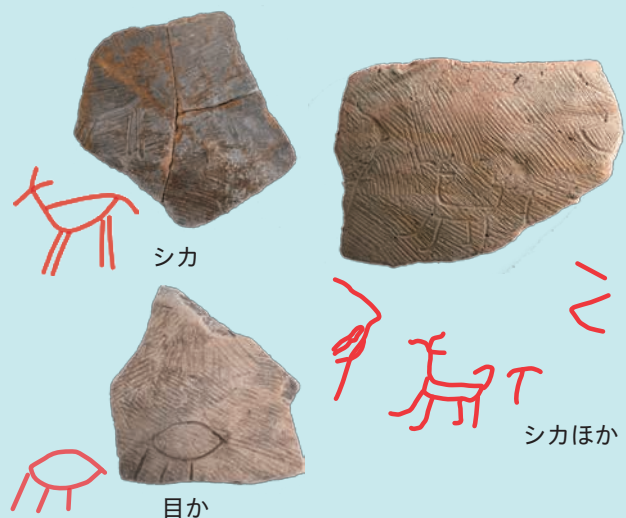
(小松市教委調査 13 区出土絵画土器より)

### コラム2 絵画土器

弥生時代の土器には、人や動物などの絵が描かれることがあります。その絵からは、当時の風景や生活の様子を知ることができることもあり、貴重な資料となります。

八日市地方遺跡では、過去の調査でも絵画土器や記号文が描かれた土器が出土しており、今回の調査でも3点の絵画土器を確認しています。このうち2点は、シカが描かれた土器ですが、異なる道具を使用して描かれています。

もう1点は、人の目と考えられる絵です。全体像は不明ですが、人の顔が描かれていた可能性が考えられます。



シカ

目か

シカほか





## 小松市 八日市地方遺跡

発行日 平成31(2019)年3月22日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

電話 076-225-1842(文化財課)

公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

電話 076-229-4477

E-mail : daihyou@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 鶴川印刷株式会社